

令和 7 年度第 2 回  
刈谷市歴史博物館協議会

研修報告と事業評価について

令和 8 年 3 月 8 日

刈谷市歴史博物館 館長代理 新田

# ミュージアム・トップマネジメント研修

- 文化庁が主催
- 開催日：令和7年12月10日（水）～12日（金）
- 対象者：博物館の館長、副館長、管理者
- 目的：以下を学ぶ。
  - 博物館を取り巻く社会の動向
  - 博物館の役割とマネジメント
  - 事業評価・改善に関する高度な専門知識 他

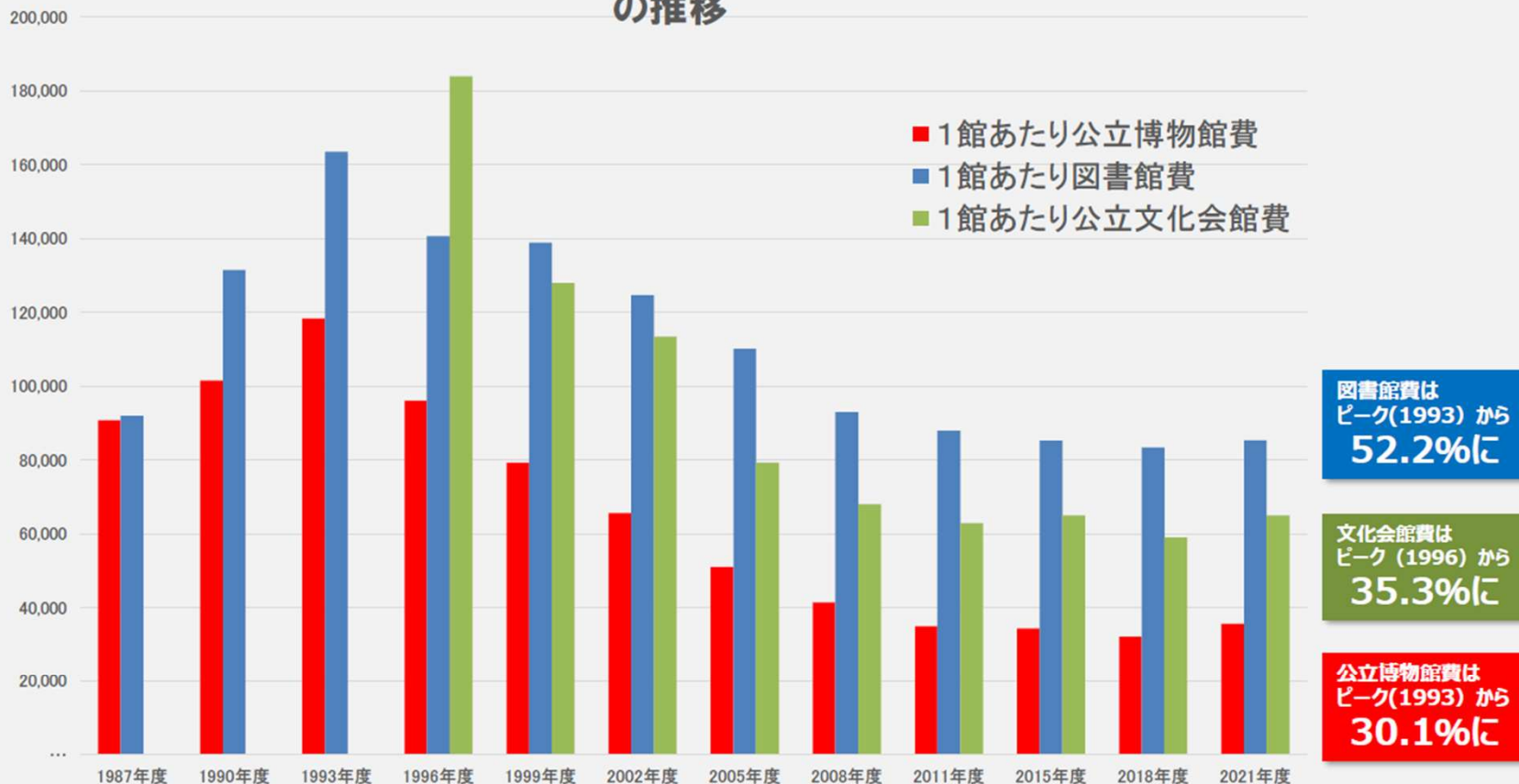
# 博物館を取り巻く社会の動向

- 少子高齢化による人口減少。
- 地方財政は社会保障関係費が増加。

施設等社会教育費は2000年を境に減少傾向。

中でも図書館にくらべ公立博物館・文化会館の削減率は大きい。

## 1館あたり公立博物館・図書館費・公立文化会館(劇場・音楽堂)費の推移



1館あたり公立博物館費: 地方教育費調査の博物館費を、社会教育調査の公立博物館数(登録・指定・類似)で割り戻して算出

1館あたり図書館費: 地方教育費調査の図書館費を、社会教育調査の図書館数で割り戻して算出(私立館を除外していないが数は少ない)

1館あたり公立文化会館費: 地方教育費調査の文化会館費を、社会教育調査の公立劇場音楽堂等施設数で割り戻して算出

R7年度ミュージアム

トップマネジメント研修資料より

**いずれの文化施設においても費用削減されているが、図書館費に比べて公立博物館・公立文化会館の削減率は大きい**

- 博物館法の一部を改正する法律（令和5年4月1日施行）
  - 目的に、文化芸術基本法の本神に基づくことを追加
  - 博物館資料のデジタルアーカイブ化
  - 他の博物館や地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与（努力義務）

# 博物館の役割とマネジメント

- 館長の役割について
  - 博物館を管理運営する人
  - 博物館法規定：「博物館の任務」の達成

- 博物館の任務とは

人々の教育・学術・文化の発展に寄与

+

地域社会への貢献

刈谷市歴史博物館条例

第2条 市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を設置する。

- 館長の役割について

- 博物館を管理運営する人
- 博物館法規定：「博物館の任務」の達成

地域社会に対する独自の貢献の結果 = 「業績」に目を向け、

**長期的・戦略的なミュージアムマネジメントを実践する**

- 公立博物館は住民のために存在している
- 博物館の持続化は、社会的価値（地域への貢献）の持続化
- 持続的な運営とこれからの振興のためには、資金が必要  
（ここから目を背けてはいけない）
- 資金の増加や収益増加は価値や魅力があるからこそ  
「持続化＝資金獲得」と単純化すると本質的な経営改善にならない

# 事業評価と改善に関する高度な専門知識

明石市立天文科学館のロジックモデル（講師試案）



人と社会の変革

# 事業評価と改善に関する高度な専門知識

## 【先進事例】

- 東京国立博物館  
一番歴史ある博物館が一番新しいことに挑戦する
- 国立科学博物館  
館長ビジョン「科学を文化に」
- 兵庫県立 人と自然の博物館  
職員全員で取り組むミッションの実現

# 刈谷市歴史博物館の取り組みと事業評価

- 刈谷市歴史博物館の目指すべき姿とは

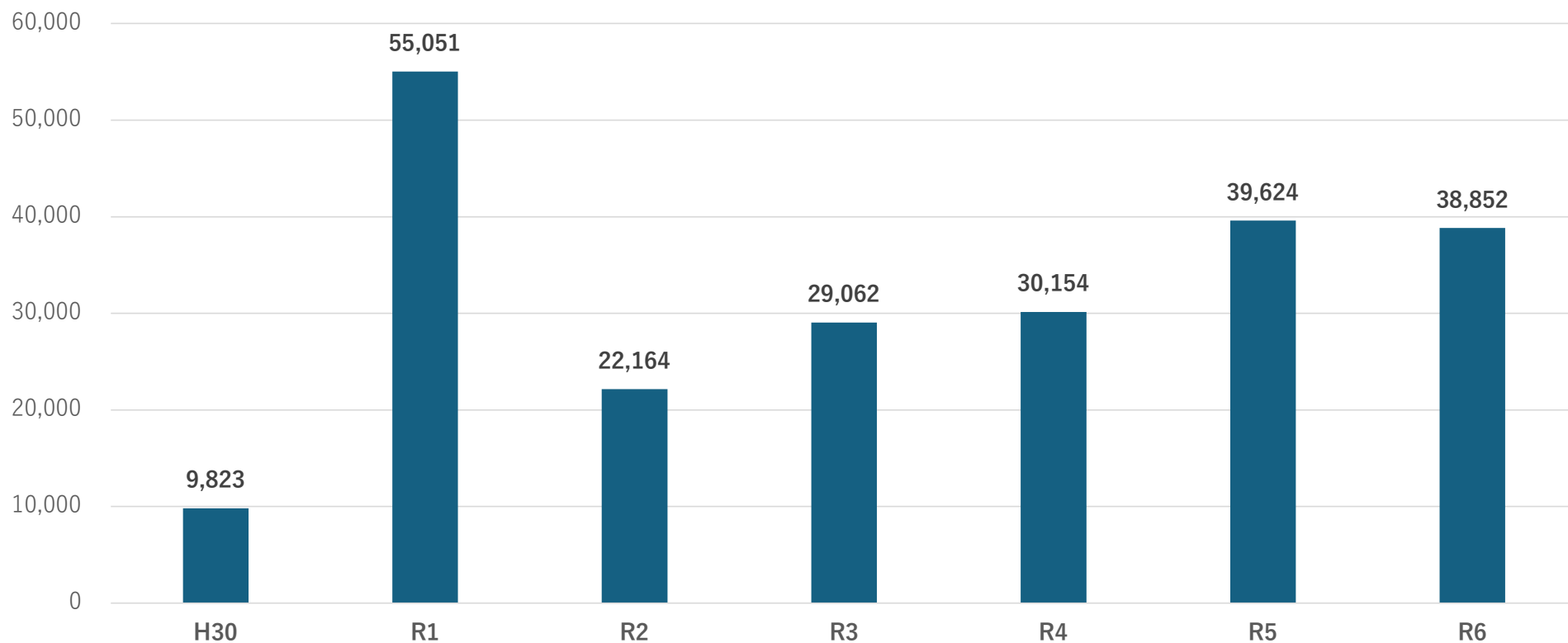
歴史博物館は、歴史資料の継承を軸として「刈谷及び周辺地域の特色」を積極的に発信し、地域の中核となるミュージアムを目指していく。

そのために、地元の学校や企業との連携、地元の歴史文化に関心のある個人・団体と積極的な関係を構築していく。

また、博物館資料を活用した新たな学びを提供することで、来館を促す。

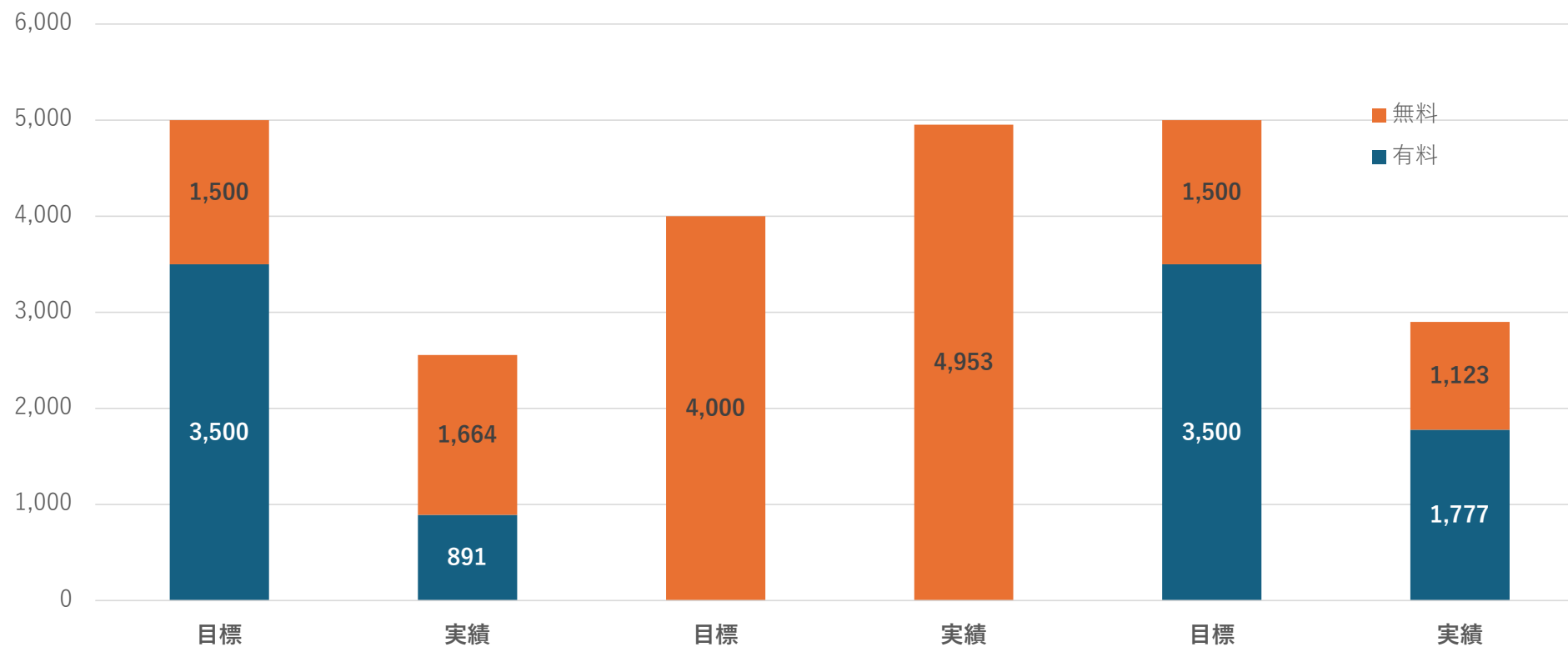
# 入館者数推移

平成30年度 3月24日開館（8日間）  
 令和元年度 3月4日から休館  
 令和2年度 4月・5月休館



単位：人	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	—	40,000	40,000	35,000	30,500	31,000	31,000	38,900

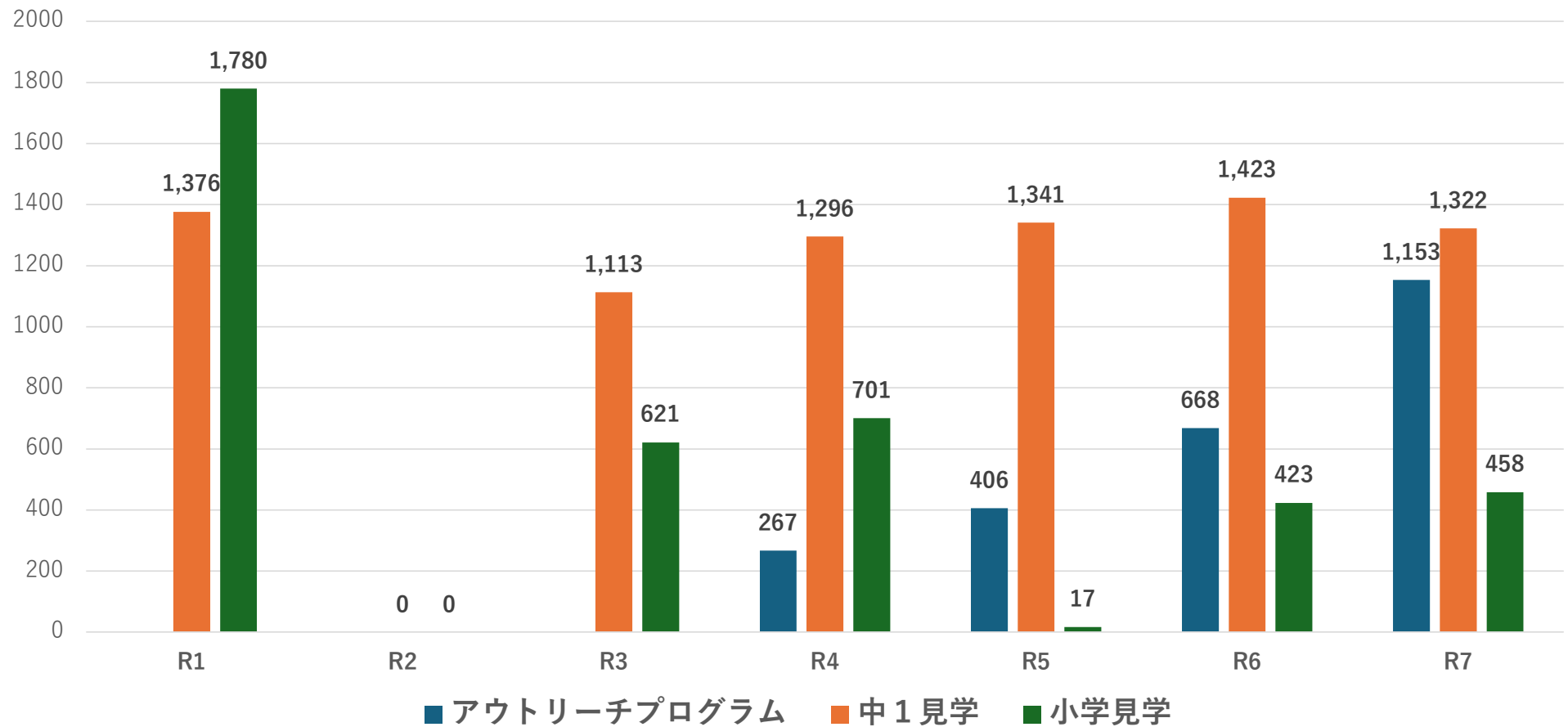
# 令和7年度 企画展入場者数



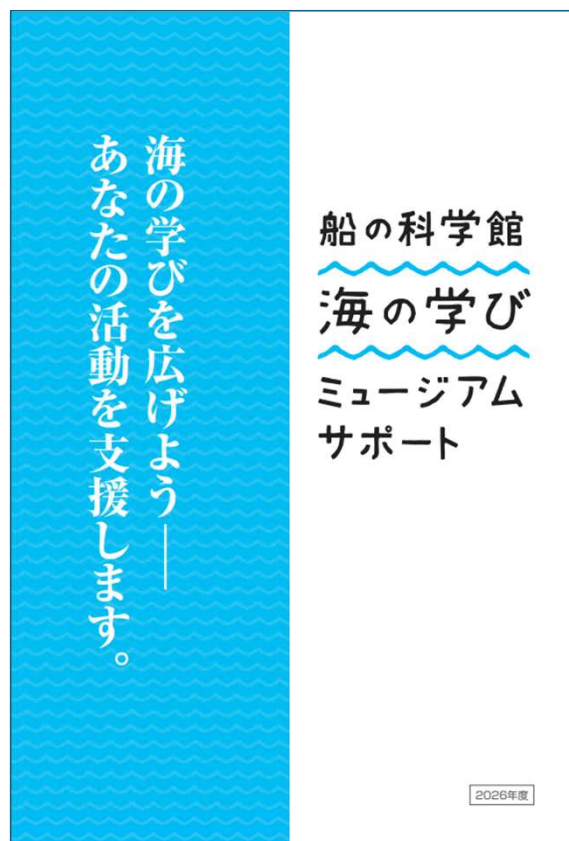
木札の世界		子どもたちの戦争		海の縄文 山の縄文	
5,000	2,555	4,000	4,953	5,000	2,900

# 博学連携

- R2年度はコロナにより中止
- R4年度よりアウトリーチプログラムを開始



# 資金調達について



- 企画展開催において、文化庁等の補助金・支援金を活用しています。

令和7年度は「海の縄文 山の縄文」展が、船の科学館の「海の学びミュージアムサポート」の支援を受け、実施しました。

支援を受けることで、充実した企画展を開催することができるとともに、新たな他館等との連携も生まれています。